

チェックリスト 台風などの強風被害の防止（メンテナンス）

項目	チェック項目	チェック欄	留意点等
腐食しやすいところ	パイプの脚部、パイプの接続部分、折り曲げ加工した場所にサビはないか。		・サビは発見次第速やかに塗装しましょう。
	柱脚、窓周り、谷樋周りにサビはないか。		・パイプは5～6年ごとに再塗装しましょう。なお、再塗装する際はサビを完全に落としましょう。
	棟部分やアーチの上面など結露して乾きにくい部分は腐食していないか。		・サビの程度のひどいパイプは交換しましょう。
	雨漏りや浸水などにより、常に湿った状態の場所はないか。湿りやすい周辺の部材やパイプに傷みはないか。		・パイプのジョイント部分は結露した水が溜まりやすくサビやすいので定期的に点検しましょう。
基礎・骨材・被覆	基礎を固定しているボルトはゆるんでいないか。		・基礎周りの地盤が緩んでいると、上方向に力がかかったときに基礎が抜けやすくなります。
	基礎近くまで耕耘して、基礎が変形したり、浮き上がっていないか。		・補強のためのブレースです。これまでの強風などによって緩むことがあるため、2～3年に1回は点検しましょう。また、ブ
	出入り口の戸車やレールに傷みやがたつきはないか。		緊張しすぎないように付近のブレースも調整しましょう。
	ブレースは緩んでいないか。		・耐久年数を超えた被覆材は破れやすいので特にチェックしましょう。
	被覆材は破れたり汚れたりしていないか。		・ハウス内部に風が吹き込むと骨材が曲がったり基礎が浮き上がったりします。ガタツキや隙間からの風の吹き込み、ビニールの破れを防ぎましょう。
	雨漏りはないか。		
	ハウス側面のスプリングや留め金付近、巻き上げ部分の被覆材は傷んでいないか。		
被災履歴	集中豪雨やハウスの浸水によって基礎部分の土が少なくなっていたり、地盤が緩んだりしたことはないか。		・基礎部分の土が軟らかかったり、基礎の埋め込みが少ない場と抜けやすくなります。
	以前に強風等によって曲がってしまったパイプを再利用していないか。		・被災後の修理には新しい部材を使用しましょう。